

# Luncheon Seminar 7

日時 2025年5月10日(土) 12:10~13:10

会場 第12会場 グランキューブ大阪(大阪国際会議場)  
10F 1009 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

本セミナーは事前予約制です

申込期間: 4月11日(金)~21日(月) ※定員に達し次第終了

●セミナー開始と同時に無効となります。

詳細は学会ホームページを参照ください。

<https://www.74jamt.jp/index.html>



## ブルガダ × AI

~最新トピックス2025~



隠れ心房細動リスク推定の  
心電図AIの有用性と今後の展望

座長 演者 笹野 哲郎 先生  
東京科学大学 循環器内科 教授



New Developments in Rhythmology:  
Past, Present and Future.

~ブルガダ症候群の発見秘話、最新情報、世界のトピックス/動向~

演者 ペドロ ブルガダ 先生  
ブリュッセル自由大学 教授、ベルギー

同時通訳

このたび、フクダ電子では臨床検査技師の皆様へご提供できる最高のテーマを2つ用意しました。1つは心電図AIとして最も新しい話題、もう1つはブルガダ症候群を発見したブルガダ先生からの貴重な講演です。ぜひ、このランチョンセミナーをお見逃しなくご来場いただければ幸いです。

# ブルガダ × AI

～最新トピックス2025～

## 隠れ心房細動リスク推定の心電図AIの有用性と今後の展望

### 笹野 哲郎

東京科学大学 循環器内科 教授

近年の人工知能(AI)の医療応用は大きく進んでおり、心電図診断においても、従来の自動診断の精度向上に加えて、AIによる疾患の有病予測が可能となっている。従来の心電図自動診断は、医師が波形を確認して検証することが可能であるのに対し、AI診断による疾患有病予測は、医師が波形をみても判別できない変化を捉えているという点で大きな違いがある。AIによる疾患有病予測には、心肥大や弁膜症など、他の検査手法によってその結果が検証可能なものと、発作性不整脈の有病予測のように、その予測結果の検証が困難なものがある。本邦においては、2024年にAIによる心房細動有病予測機能(PAF-AI)つき心電計が上市され、今後もAIによる疾患有病予測は増えていくと思われる。

一方、Brugada症候群は本邦を含む東アジア・東南アジアで有病率が高い疾患であり、典型的には夜間就寝中の心室細動を生じることがあり、突然死のリスクがある。Brugada症候群は、標準12誘導心電図の右側胸部誘導(V1, V2誘導)におけるST上昇が心電図診断に必須だが、このBrugada型心電図波形をもつ人のなかで心室細動発作を実際に生じるのは一部であり、心室細動のリスクを評価することもまた困難である。この点についても、近年のAIによる心電図波形の学習から、心室細動リスクが高い症例を層別化することが一定の精度で行える可能性が示された。

本講演では、心電図に対する発作性不整脈の有病予測におけるAIの有用性と今後の可能性についての紹介を行う。

## New Developments in Rhythmology: Past, Present and Future.

～ブルガダ症候群の発見秘話、最新情報、世界のトピックス／動向～

### ペドロ ブルガダ

ブリュッセル自由大学 教授、ベルギー

心臓病学、特にリズム学は心電図の登場を基に大きく進展し、1967年には電気生理学的検査が確立されて不整脈の治療が進化しました。そして、ペースメーカーや植込み型除細動器(ICD)などの誕生にも貢献しました。また近年では遺伝子研究の進歩により一段と不整脈の原因が解明され新たな治療法が開発されています。

このセミナーでは上記のような歴史を振り返りつつ、ブルガダ症候群発見者だからこそ話ができるその発見秘話や最新の臨床情報、世界のトピックス、トレンドなどを講演していただく予定です。